

# 公立甲賀病院

## 肝動脈塞栓術説明書および同意書

患者 様の 経カテーテル的肝動脈塞栓術実施について、以下通り説明いたしました。

### 1. 現在の病状と処置・検査・治療の必要性について

肝腫瘍に対する治療には、手術以外の方法として、経皮的な局所治療(ラジオ波焼灼術・エタノール注入療法)、あるいは動脈から抗腫瘍薬・塞栓物質を注入する治療(経カテーテル的肝動脈塞栓術)があります。今回はこれまでの経過と現在の病状を併せ 経カテーテル的肝動脈塞栓術 を施行することを選択しました。

### 2. 処置・検査・治療の方法

穿刺部(原則として右足の付け根の部分ですが、他の部位が選ばれることもあります)を局所麻酔後、カテーテルと呼ばれる細い管を動脈内に挿入して、目的とする血管の撮影(血管造影)および抗腫瘍薬の動脈内注入を行います。場合により血管塞栓目的にゼラチンの粒子を追加注入します。透視下で行います。処置は局所麻酔で意識のある状態で行います。

### 3. 処置・検査・治療に伴う合併症と危険性、および緊急時の処置について

頻度的には非常に稀なものも含めて、以下のような合併症の可能性があります。現在の疾患の治療の上で上記は必要な検査、手技です。緊急時の処置は勿論万全を期して施行しますので、御了解下さい。

- 1 : 血管造影手技に伴う合併症として、穿刺部の血腫形成、感染、血管損傷による出血・血管閉塞 等
- 2 : 使用する造影剤による血管造影時の 熱感あるいは疼痛、ショック 等
- 3 : 動脈内注入する抗腫瘍薬による 発熱、腹痛・腹部違和感、悪心・嘔吐、一過性肝機能障害、骨髄抑制(白血球減少) 等

説明日時 年 月 日

説明場所 \_\_\_\_\_

説明医師 診療科 \_\_\_\_\_

氏名(署名) \_\_\_\_\_